

〈研修会報告〉

令和五年度 夏季研修会報告

福翔高校 谷川 彩菜

令和五年七月、宗像ユリックスにおいて福岡県書道教育研究部会、夏季研修会が行われた。新型コロナウイルスの影響も次第に落ち着きを見せはじめ、数年ぶりに県内の書道教員が一堂に集まっの研修会となった。

前半は、授業作品展の作品選出と鑑賞会が行われた。各学校の工夫を凝らした作品を鑑賞しながら、他校の先生方と授業の進め方や使用した道具などについて情報交換をすることができた。今後の授業に活かせる良い刺激をもらうことができた。

後半は、高口指導主事による講演会が行われた。「カリキュラムマネジメントの一環としての指導と評価」をテーマとした内容であり、これからの教育における評価の在り方についてお話いただいた。学習評価について近年指摘されている課題をもとに、丁寧な解説を聞くことができた。学習評価とは学校における教育活動に関して行われるものであり、生徒の学習改善につながる評価にすることが重要であることなど、評価の在り方について考えを整理することができた。

講演後は、具体的な指導計画を用いて班ごとに評価規準を作成した。難しい作業ではあったが、班内の先生方と試行錯誤する中で自身の評価規準の幅が広がったように感じた。また、一人では気付けなかったことに気づかされ、授業の進め方に関する新たな方法を知ることができた。ど

の班も活発に意見交換がなされ、非常に充実した時間となった。
コロナ禍においては、Zoom等のテレビ電話アプリを使う機会が増えたことでネット環境の利便さを実感し、人と直接会わなくとも十分ではないかと感じた時期もあった。しかし、それもしばらく経験するとネット環境でのコミュニケーションだけでは物足りないと感じ始めていた。今回の研修会を経て、人と人が直接会って話すことの良さを改めて感じた。最後に、今回の研修会に関わってくださったすべての先生方に感謝の意を表し、研修報告いたします。

